

シリーズ☆働く現場から
～鹿野川ダム管理編～



第16弾

潜入取材！

ダム管理業務とは！

平成29年6月15日

鹿野川ダムを支えるプロに密着！？

今回お話を伺ったのは

(株)建設マネジメント四国

二宮 浩二 さん (写真左)

三馬 崇一 さん (写真右) です。

鹿野川ダム管理について
詳しく教えていただきました。

インタビュー記事はこちらから→→

1 ダム管理業務ではどんなことをしていますか。

日常的にしている業務は『巡視』・『記録』・『点検』です。



巡視

車や船で、構造物の破損・地山の崩壊・不法占用・不法投棄・水質異常(油流出・アオコ・淡水赤潮)等が無いかを直接、目視により確認します。

ダム湖の周辺を安全確認します。



橋から油が落ちていないか、危険が無いかなどを確認します。



採水作業

貯水池内の水質に異常が無いか調べるため、ダム湖の水を採水します！



採水試料

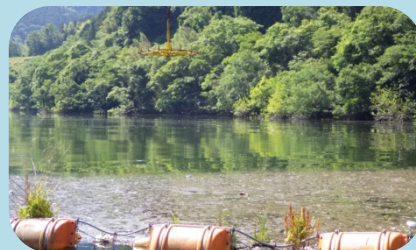
水質分析機関
による分析



水質分析・検討・報告

貯水池内維持

ダム湖内の状態を確認をして清掃作業を行います。



ダム湖に網を張り、洪水により流れてきた流木やゴミなどを集めます。



ダム湖の上空にワイヤーを張り、UFOキャッチャーのようにゴミをすくっていきます。

2 ダム管理で毎日していることは何ですか。

毎朝、操作室でダムコン・テレメータ(雨量・水位自動観測装置)・気象観測装置(気温・水温・漏水量)・水質自動観測装置・洪水予測システム・CCTV(カメラ)等の機器で観測や計算された結果に異常値が無いかを確認しています。



テレメータ (雨量・水位自動観測装置)

鹿野川ダム周辺の雨量と水位のデータが遠方の測定器からダムコンに送られてきます。

記録

水質自動観測装置

ダム湖の水について自動的に水質分析を行い、その結果を送信します。

ボートにのって上流まで巡視に同行させてもらったよ！



3 ダムの堤体観測では何を観測していますか。

ダム堤体観測では、漏水量・揚圧力・クラック・たわみ量(プラムライン)を計測していて、数値に異常が無いかを確認しています。

揚圧力

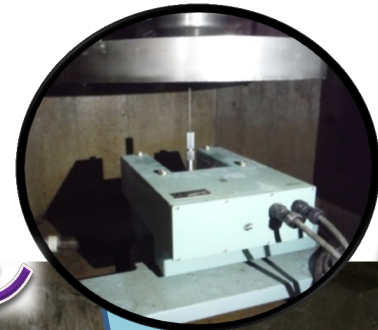
ようあつりょく

ダムが設置されている岩盤にしみこんだ水がダム堤体をうきあがらせようとする力を調べます。



プラムライン

水圧などによるダム堤体の変形・変位を計測する装置。ダム上部からぶら下げられたステンレス線により、たわみ量を計測しています。



点検

ダムが設置されている岩盤とダム堤体の継ぎ目などからしみ出てくる水の量を調べます。

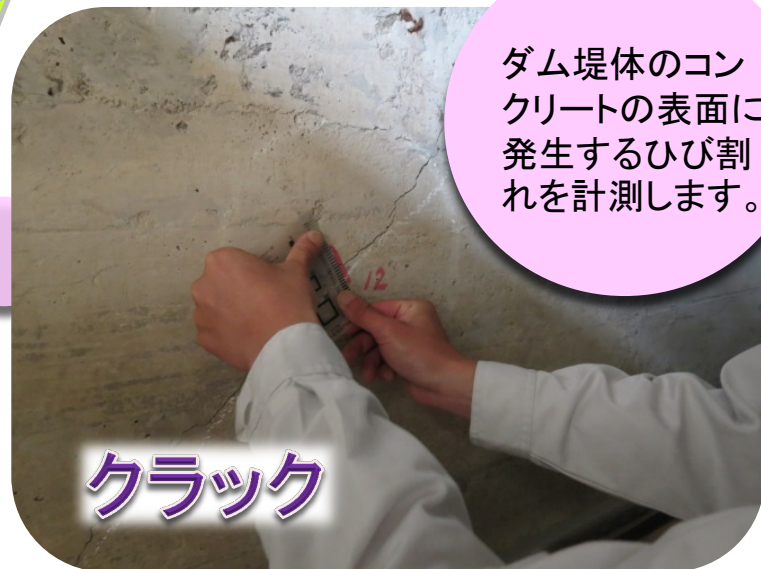
漏水量

ろうすいりょう



ダム堤体のコンクリートの表面に発生するひび割れを計測します。

クラック



4 ダム管理業務で放流時にしていることはどんなことですか。

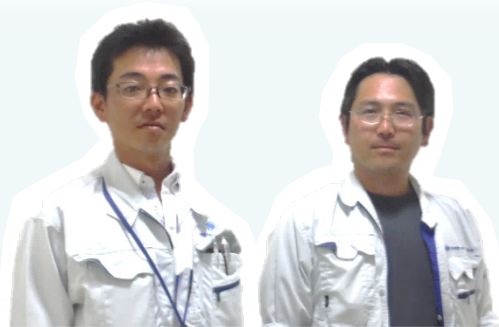
大雨が降ったときなどは、ダムの洪水用ゲートから放流を行います。洪水用ゲートからの放流では、流量が大きくなり、下流の河川水位が急に高くなって危険になるため、事前に警報所からサイレンを吹鳴したり、放送で注意をうながしたりしています。ダム管理補助員である私たちは、事前に防災関係機関に情報を連絡するお手伝いをしています。また、ダムに流入してくる流量の予測計算や、洪水用ゲートの開度を計算する補助もしています。

5 ダム管理で大変なところはどんな点ですか。

天気次第で仕事(放流)になる(予定していた事ができなくなる)ことです。放流が長期間になると少ない人数で24時間の監視・操作体制を執ることから寝不足にもなりがちです。また、放流量を決定するための流入量予測は難しいのですが、最近のコンピューターの発達により、昔にくらべ精度は高くなりました。しかし、経験による部分もまだまだあるところです。

6 ダム管理でやりがいを感じるのはどんなときですか。

洪水予測を行い放流量を低減させて下流の被害を少なくできた時にダムが住民のために役に立っていると実感することができ、やりがいを強く感じます。



7 心がけていることはありますか。

常に天気予報をみています。
雨が降っている時は雨雲短期予測を見ています。
適切なダム操作を行い放流で下流の被害が出ないように心がけています。

8 地域の方々にひとことおねがいします。

ダムの存在と適切な操作により下流被害が少なくなっていることを理解してくれる方が多くなると嬉しいです。

あ と が き



今回は、ダム管理についてお話を聞かせていただきました。私は、期間業務職員になり今年で3年目となりますが、初めてダム湖の船上巡視に同行しました。これまでインタビューさせていただいた中でも、とてもワクワクしたインタビューとなりました。

鹿野川ダムは改造工事を行っているというイメージが強いですが、昭和34年に完成してから約58年という長い期間、多目的ダムとして運用を続けています。鹿野川ダムが安全に働き続けるために毎日、点検・管理をされている方々のお話を聞いて、縁の下の力持ちとして鹿野川ダム、そして下流の方々の安全を守っているのだと実感しました。

これから、台風の季節になりますが、大雨でも何事もなく日々過ごせるのは、鹿野川ダムや、そこで働いている人たちの努力があつてのことであると一人でも多くの方に知っていただけると嬉しいです。

工務課 期間業務職員 上野